



門へ遠 13  
第 1458  
巻 今止



怪談清伽壺巻五

城、主水谷川、トウツツとウツツ 奇情夏

茶山々土壤と穢らぐぬふく其のたふとふと  
河海と細流といふもぬく其のたふとふと  
ふとさやむ橋度ハシの玉司ふはくけるちふは  
西飛橋ハシつらねをとりつる人ありけり生なまり  
の支さりほく勤仕しんじのちふとむつまぐくか  
西飛物ハシモノふ男子おとことてり有る名と幾いく之助のすけと  
取とりかきふりつるまでんふしれまはる支さの  
くみ入いりつる身みの老おと志しをてけりの人ひとかん



朋友あまの可なりつけくゆかむまうふい何ぶさ  
砂とまをく彼の位右とあつてそなたにせしや  
しふ陸奥の島さうり石をれをあつてはつんお  
まじくはれぬにや城をねたつてりりふにけ反陸奥  
へ下りんも西の海さく百抱つてせんふんわさ活  
まき〇と何あさきしれ新殿とまを先下りり  
御うとまはなと城トてん人そりり木しむ  
途のちちぬははらあまはひびとけとまは年  
はらとけしあ人もまきぐうつりまをわぬはす  
けらあははれとらんといふあり方のけり定

中とまをわが中くく天路ははしとらふう今  
まはし海志はらふいねらうらま志まはしね  
まを通えしとんとはくく海をめぐり切つ心  
をせしあつてはれしとまをくくしとまを  
も海がくしをも物をりけりあがらまはしは  
いふおまをたどらありて親のやうにせんといふ  
ありし海にほつてはれしとまをくくしとまを  
しとまをたどらていしねまをたどらていしとまを  
のあまおまもまをたどらていしねまをたどら  
けりまもくもまをたどらていしねまをたどら



何れも少少  
西物とも色一くしてたむらとともかしく少少  
と互ふるきんやしてさ白ふゆらまはるまざあそ  
りてふはとまをいつらふらぬ  
さ東ふるみらぬさして下らぬ秋  
さあもつてにあかちもゆさ秋乃枝  
つらふわさるぬ蘭乃ちらぬ  
さびめ細むさるぬ  
さあつて秋田さるぬ  
さ道すがらの式の流るぬ

さふ心もつるさささの香さささ  
さるぬ  
ゆら山とさるぬ  
りさるぬ  
さ油さささ  
海さささ  
あねささ  
さささ  
てゆはささ  
の心はささ











海客談の程とが、いふらや、  
と一はきく、いふらん、  
母よげ、  
一すま、  
あふ、  
て、  
り、  
ば、  
け、  
ら、

つら、  
は、  
ま、  
は、  
あ、  
一、  
は、  
ふ、

さ、  
う、  
そ、  
の、















五十八

あはれし女侍とていふ人にてはまはる  
りしにすてはるがよめなりとて守  
りしにすてはるがよめなりとて守  
りしにすてはるがよめなりとて守  
りしにすてはるがよめなりとて守  
りしにすてはるがよめなりとて守  
りしにすてはるがよめなりとて守  
りしにすてはるがよめなりとて守  
りしにすてはるがよめなりとて守  
りしにすてはるがよめなりとて守  
りしにすてはるがよめなりとて守

いひしにすてはるがよめなりとて守  
りしにすてはるがよめなりとて守  
りしにすてはるがよめなりとて守  
りしにすてはるがよめなりとて守  
りしにすてはるがよめなりとて守  
りしにすてはるがよめなりとて守  
りしにすてはるがよめなりとて守  
りしにすてはるがよめなりとて守  
りしにすてはるがよめなりとて守  
りしにすてはるがよめなりとて守  
りしにすてはるがよめなりとて守

とけくいし月夜とせぬざりし面影をい合ふれ  
うらもつねにまじりてるをあるもとの人ごうが  
さひしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり  
かの若ほりてさういひしよ本のまゝかきしり  
又かきしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり  
了今と人なりしゆりしゆりしゆりしゆり  
おどかしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり  
おどかしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり  
へんはまがけことせりしゆりしゆりしゆり  
ゆりゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり

かきしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり  
おどかしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり  
おどかしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり  
へんはまがけことせりしゆりしゆりしゆり  
ゆりゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり  
川乃川下とゆりしゆりしゆりしゆりしゆり  
がまがきたまゆりしゆりしゆりしゆりしゆり  
すまひなまゆりしゆりしゆりしゆりしゆり  
うでおのまゆりしゆりしゆりしゆりしゆり  
せまなまゆりしゆりしゆりしゆりしゆり  
そのまゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり

八十八

ばりてけしきふりも縁と流りあふんとてなむ  
ゆりしころうしんをうまんとしん流り神仏の  
らんらんといはしほきえんしんぞわらわど  
そぐくもあはれしものあもたふんをうま  
ふねもふあふねゆくはるのあはれはうめ  
まげしうしんも一入るりしん男女の  
あふくこころしてまふもあはれりか増と  
まふくこころしてまふもあはれりか増と  
あふくこころしてまふもあはれりか増と  
あふくこころしてまふもあはれりか増と  
あふくこころしてまふもあはれりか増と

怪談山伽藍巻之五終



花鳥百談靜觀房好河述前編

全部五冊  
先達あはれ

明和九辰歳二月吉辰

寺町通五條橋上西側

京都

梅村判兵衛版

